

# 大里地区 ガイドマップ

DAIRI GUIDE MAP

## 門司駅北側

- 産業遺産関連施設
- 豊前大里宿関連史跡

### 1 門司赤煉瓦 プレイル施設群 (旧帝国麦酒門司工場)

明治末期、日本国内のビール消費量が飛躍的に伸びましたが、当時の九州・四国にはビール工場がありませんでした。そこで、門司市の合資会社である九州興業仲介所代表社員の山田弥八郎は、九州で最初のビール会社設立を画策し、鈴木商店の援助を受けて「帝国麦酒株式会社」が誕生し、大里のこの地に煉瓦造建物群ができあがりました。



### 2 街道松

江戸時代、大里の宿場から手向山あたりまでの街道筋に松並木が続いていました。ここからは、太陽が大きく玄界灘の水平線に沈む風景は絶景と評され、「入日の松原」として知られていました。現在地に残った松は、樹齢350年以上とされています。

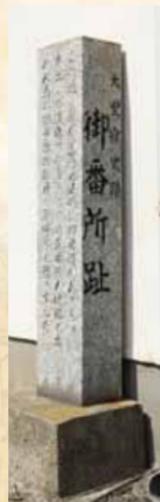


## 【大里宿】

江戸時代、武家諸法度により参勤交代制が始まると、九州の諸大名は小倉または大里から渡航することが多く、大里は長崎街道の延長として小倉と門司を結ぶ「街道」の起点となり、宿場として繁栄していきました。宿場には本陣、脇本陣、御番所、御高札などすべての施設があり、密貿易船の取り締まりと対唐貿易品の管理を行う長崎番所が置かれていました。幕末の長州との戦争で焼失して現存するものはほとんどありませんが、その跡地には、石碑が建てられています。

〈本陣とは〉… 諸大名が参勤交代で往復する時に宿泊に充てられた旅館です。小倉藩ではお茶屋と呼びました。

- 3 長崎番所跡
- 4 豊前大里宿跡
- 5 重松彦之丞屋敷(脇本陣)跡
- 6 本陣(お茶屋)跡
- 7 御番所跡



### 10 八坂神社

八坂神社は大里村の守り神であり、近代になって町の開発が進んだ際に住吉神社がここに合祀され、大里村各所にあった道祖神も集められました。また、石原宗祐が奉納した石灯笼や鈴木商店関連の玉垣なども見ることができます。



### 11 飯野物産株式会社 門司営業所(旧大里倉庫)

8と同様に「大里倉庫」の建物でした。現在は飯野物産株式会社門司営業所の倉庫として活用されています。(外観のみ観覧可能)



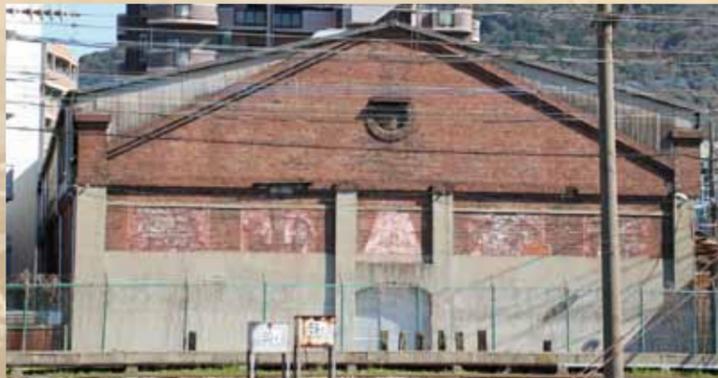
## 《大里地区について》

古く以前は「柳」や「柳ヶ浦」と呼ばれていたこの地に、平安時代に安徳天皇を伴った平家一行が「柳の御所」を設けたことにより「内裏(だいり)」と呼ばれるようになりました。

その後、江戸時代に朝廷から異国族舟平定の命を受けたため、時の藩主が内裏の海に血を流すのは畏れ多いとして「大里」に書き改めました。また参勤交代が行われるようになると、宿場として発展していきました。

そして明治時代にはいと鈴木商店を始めとする工場や企業の進出が進み、工業化の波がやってきました。現在も当時の面影を残す産業遺産群の建築物をご覧になることができます。

### 8 岡野バルブ製造株式会社第二機械工場 (旧大里倉庫)



大正9(1920)年竣工。鈴木商店大里製糖所が製糖原料としてジャワ糖の輸入や保税原糖の取扱いを行うため「大里倉庫」が設立され、その倉庫として建てられました。現在は、岡野バルブ第二機械工場として活用されています。(外観のみJR線路越しに観覧可能)

### 9 佛願寺

佛願寺は浄土真宗本願寺派のお寺です。幕末の長州との戦争により、本堂等を焼失しましたが、本尊阿彌陀如来は猿喰の地に持ち出して被災を免れました。その後、明治に入り再建されました。

この寺の僧侶達は幕末より20年間、寺子屋としてここで子供達に読み書きを教えていました。明治6年、本町番所跡に大里学校が設立され、僧侶達が教師となり始めての学校教育がなされました。



### 12 石原宗祐屋敷跡(石碑)

石原宗祐は、わずか28歳の若さで庄屋役を拝命しました。当時は米穀が経済の基盤であり、かつ相次ぐ飢饉にあえいでいたため、宗祐は自力で大里村六本松の荒地を開墾しました。その後、宝暦7(1757)年、48歳の時に19年余務めた大里村の庄屋職を辞し、弟と猿喰海岸の大規模な開作工事に私財を投げ打って着手しました。その工事は困難を極めましたが「後世の為になる一大事業なり。これを成し遂げずんば一步も退かず」と諦めることなく、同9年に33町余(約33ha)の新田を得ることができました。その後、曾根の開作を命じられて莫大な費用をかけ、完成まで8年の月日を要し、新田84町余(約84ha)の開作時、宗祐は94歳に達していました。宗祐の功績は偉大であり、数々の恩典を与えられました。



### 13 西生寺

康生2(1458)年に創建された浄土宗の寺院です。江戸時代、細川家の浜御殿があったこの場所に移り、移転した跡地には本陣が置かれました。また、江戸時代に宗門改め(ほんもんかへ)の政策がとられたため、判行寺として絵踏が行われました。境内の墓地には、大里宿に船屋敷を構えた久留米藩の藩士の墓や、鈴木商店が工場建設をするため、その用地内にあった無縁墓を移し埋め、「萬世一夢」と名付けたものなどがあります。



### 14 関門製糖株式会社工場棟 (旧鈴木商店大里製糖所)

明治37(1904)年竣工。国道199号線にそびえる煉瓦工場群の中でもっとも密度の濃い工場群です。敷地内見渡す限りの煉瓦造現役工場で全国的にも珍しい施設です。もともとは、この工場施設を含めた地域一帯が鈴木商店という、かつて日本有数の総合企業体であった企業の一工場群でした。(外観のみ観覧可能)



### 15 ニッカウヰスキー門司工場倉庫(旧大里製粉所倉庫)



大正3(1914)年当時、鈴木商店が建設した大里酒精製造所が始まりです。操業開始以来、主に焼酎を製造しており、当時は発酵原料として必要な糖蜜、フスマ、ビール酵母などは、全て隣接地にある鈴木商店経営の大日本製糖、大里製粉、帝国麦酒から容易に調達することができました。歴史の中で、吸収・合併を経てニッカウヰスキー(株)門司工場として現在に至っています。(外観のみ観覧可能)